

研究課題：保健政策概念モデル Health Policy Triangle による 8020 運動の政策分析

研究者名：竹原 祥子¹⁾，小川祐司¹⁾，F. A. Clive Wright²⁾

所属：1)新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 口腔健康科学講座、2)シドニー大学 Centre for Education and Research on Ageing

【目的】本研究の目的は 8020 運動推進の関係者、政策策定の過程、推進プロセスおよび背景、推進を後押しした要因や障壁などを明らかにし、高齢化が進展する国々における歯科保健政策形成に寄与することである。

【方法】研究方法として 8020 運動に関する文献レビュー及びキー・インフォーマント・インタビューという質的研究手法を採用した。8020 運動の立案と導入過程、本政策がどのような利益を国民にもたらしたかを明らかにするためのフレームワークとして保健政策トライアングル (The Health Policy Triangle Framework; HPT framework) を用いた (図 1)。キー・インフォーマントインタビューで得られた情報は、保健政策トライアングルに基づいてコード化し、文献検索の結果と統合した。

【結果及び考察】文献検索では最終的に 25 文献 (英語 5 報、日本語 20 報) を選定し、必要な情報を抽出した後に、アウトカム毎に分類し、ナレティブな手法でレビューを行った。キー・インフォーマント・インタビューでは 9 名にインフォーマントに対してキー・インフォーマントインタビューを行った。分析の結果、8020 運動推進には、さまざまな分野の専門家とのコラボレーション、関連する団体や個人のサポートや協力があつたことが明らかになった。8020 運動が成功した大きな要因として、運動を推進する母体として 8020 推進財団が設立されたこと、口腔保健の目標が分かりやすく、明確に示されたことが挙げられる。また 8020 運動の活動がオタワ憲章の 5 つのアクションプランに即したヘルスプロモーション戦略が取られていたことが明らかになった。

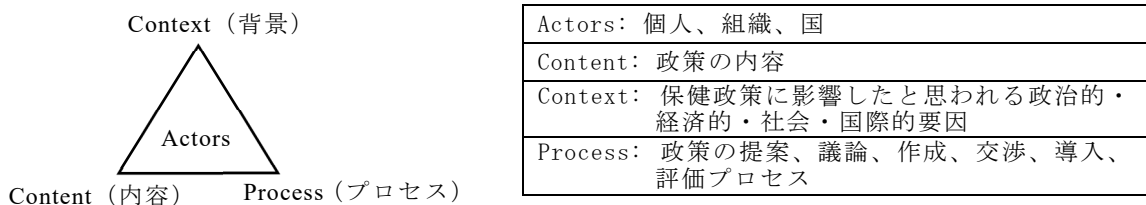


図 1. Health Policy triangle (保健政策トライアングル) (Walt G, Gilson L, 1994)